

感染症定期報告感染症別文献一覧表(2014/12/1~2015/3/31) 資料 4-1

ID	感染症 (PT)	出典	概要
1	E型肝炎	Transfusion. 8(2014)2134-2135	輸血によるE型肝炎ウイルス(HEV)伝播を予防する対策について。IgGおよびIgM検査によるスクリーニングでは、HEVによる輸血汚染を排除できず、HEV NATのみが有効であると考えられる。しかしながら、HEV NATによるスクリーニングの導入に際しては、感染リスクの十分な調査と費用対効果の検討が必要であるとの報告。
2	E型肝炎、HIV感染	AIDS. 28(2014)1931-1937	スペインのHIV感染者におけるE型肝炎ウイルス(HEV)重複感染に関する報告。スペインにおいて613例のHIV感染者を対象に、血清中のHEV IgG抗体とHEV RNAについて調べた。調査開始時に161例(26%)がHEV IgG抗体陽性であり、感染率は女性比べ男性の方が多く、年齢とともに直線的に上昇した。18例が2年間の追跡期間中にセロコンバージョンを起こし、1例が急性肝炎を発症し、4例が軽微な高トランスアミラーゼ血症をきたした。セロコンバージョンから慢性HEV感染に移行した症例はなかった。
3	インフルエンザ	2014-15 Influenza Season - Week 42, ending October 18, 2014	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。Wisconsin州において、H3N2vのヒト感染症例1例が報告された。ヒト-ヒト感染は確認されていない。本症例は発症の前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。
4	インフルエンザ	MMWR. 63(2014)1189-1194	米国における2014年9月28日~12月6日でのインフルエンザ活動性に関する報告。WHOとNational Respiratory and Enteric Virus Surveillance System共同の研究室約250カ所にて、124,618件の呼吸器検体を検査した結果、13,641件(10.9%)でインフルエンザ陽性であり、このうち、89.3%はA型、10.7%はB型であった。A型のサブタイプは、H3:99.1%、pH1N1:0.9%であった。
5	インフルエンザ	MMWR. 63(2014)861-864	米国および世界における2014年5月18日~9月20日でのインフルエンザ活動性に関する報告。WHOおよびNational Respiratory and Enteric Virus Surveillance System共同の研究室において、米国の計66,006の呼吸器検体が検査され、3,209検体(4.9%)がインフルエンザ陽性を示した。このうち54%はA型、46%はB型であり、A型のサブタイプはpH1N1:4%、H3N2:96%、H3N2v:0.2%であった。世界的には南半球において季節的な流行が認められ、オーストラリア、ニュージーランドでは7月下旬から9月中旬までインフルエンザ活性が上昇した。
6	インフルエンザ	ProMED-mail 20140828.2728617	米国におけるインフルエンザA(H3N2)変異型(H3N2v)の報告。2014年8月18日の週に米CDCはOhioにおけるH3N2vの初めてのヒト発症例を報告した。ヒト-ヒト感染は確認されていない。本症例は発症の前週にブタとの濃厚接触があったことが報告されている。
7	インフルエンザ	http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/infuenza_Summary_IRA_HA_interface_04December2014.pdf?ua=1	スウェーデンと米国におけるインフルエンザの報告。2014年スウェーデンにおいてインフルエンザA(H1N2)型再集合ウイルスが2例検出された。米国でインフルエンザA型(H3N2)変異型(H3N2v)ウイルスが3例検出された。全例にブタへの密接な接触があった。
8	鳥インフルエンザ	第62回日本ウイルス学会学術集会 (2014.11.10-12)	2014年4月に熊本県の養鶏場において、死亡鶏よりH5N8亜型高病原性鳥インフルエンザウイルスが分離された。死亡鶏より分離されたA/chicken/kumamoto/1-7/2014(Ku14)の全遺伝子配列を決定し系統を解析した。Ku14を10 ⁶ EID50経鼻接種した鶏は、全羽死亡し、ウイルスが分離された。10 ⁴ EID50以下では、全羽生存し、抗NP抗体も検出されなかった。アヒルに対する経鼻接種では死亡は確認されず、10 ⁴ EID50以上を接種した全個体において、ウイルスが分離され抗NP抗体が検出された。アヒルは鶏よりもKu14に対する高い感受性を示す一方で、感染した個体の病態は軽微であった。Ku14は水禽に適応した遺伝子集合ウイルスであり、症状を示しづらい水禽によって日本に持ち込まれた可能性が示唆された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
9	ウエストナイルウイルス感染	ProMED-mail 20140910.2764698	米国におけるウエストナイルウイルスの報告。2014年米国カリフォルニアにおけるウエストナイルウイルスのアウトブレイク1件によるヒト確定例は94例のうち死亡例が3例であった。
10	ウエストナイルウイルス感染	ProMED-mail 20141224.3052066	ブラジルにおけるウエストナイルウイルス感染の報告。ブラジリアイ州の地方自治体であるAroeira do Itaimにおいて、ウマ1例のウエストナイルウイルス陽性が認められた。これはブラジルにおける初の症例である。また、当該地域では、2014年6月にカウボーイ1例が神経学的症状を呈しており、2014年12月にこの症例のウエストナイルウイルス感染が確定している。
11	日本脳炎B型	ProMED-mail 20140629.2573067	2014年6月27日、ベトナム保健当局はベトナム国内における日本脳炎の症例数が増加傾向にあるため警告を発した。ハノイにあるCentral Children Hospital において2014年初め以降、日本脳炎の症例130例が入院した。
12	日本脳炎B型	The Himalayan Times	ネパールにおける日本脳炎の報告。2014年7月中旬以降、Morang District の3ヶ所のvillage development committeesにおいて、少なくとも6例が日本脳炎により死亡した。他7例が危篤状態である。Morang Districtのほか、Jhapa, Siraha, Saptari districtsにおいて患者が増加している。
13	日本脳炎B型	ProMED-mail 20140828.2731739	ID12と同じ。
14	エボラ出血熱	CDC Case Counts 12 December 2014	2014年12月12日時点で、エボラ出血熱は西アフリカ以外の国に感染が拡大し、感染者数は17,942例、死亡者数は6,388例に及んでいる。その中には米国の国内感染例4例が含まれる。
15	エボラ出血熱	GAR 9 October 2014	スペインにおけるエボラウイルス疾患(EVD)の初めての地元感染の報告。本症例はアフリカ以外の初めてのヒト-ヒト伝播である。本症例は、医療従事者であり、2014年9月24日、15日にEVD患者に接触した。適切な個人防護具を着用していた。9月29日に発熱を呈し、10月1日にエボラウイルス陽性であることが確認された。
16	エボラ出血熱	Health Protection Report Vol.8 No.47 2014年12月12日	2014年12月9日までに、エボラウイルス疾患(EVD)に臨床的に適合する症例計18,152例(少なくとも死亡例6,548例を含む)が、ギニア、リベリア、シエラレオネ、米国、マリ、ナイジェリア、スペイン、セネガルから報告されている。
17	エボラ出血熱	MMWR 2014/10/12	米国におけるエボラウイルス陽性症例に関する報告。2014年10月12日、CDCはTexas Health Presbyterian hospitalに勤務する医療従事者がエボラウイルス陽性であることを確認した。この症例は、ダラスのエボラウイルス初発症例の治療に携わった医療従事者である。
18	エボラ出血熱	http://www.cdc.gov/media/releases/2014/s1012-ebola-confirmed-texas-health-care-worker.html	ID17と同じ
19	エボラ出血熱	Pro-MEDmail 20141015.2868385	エボラウイルス陽性症例患者が診断前にフライトを利用したことに関する報告。この患者は2014年10月10日にダラス発クリーブランド行きの飛行機で渡航し、10月13日にテキサスへ戻り、10月14日に発熱を呈して隔離され、エボラウイルス陽性であることが確認された。
20	エボラ出血熱	ProMED-mail 20140922.2792415	西アフリカにおけるエボラ出血熱の報告。2014年9月20日時点でギニア、リベリア、シエラレオネの各保健省から報告されたエボラ出血熱は5,843症例、死亡例2,803症例であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
21	エボラ出血熱	WHO GAR 2014年7月19日	2014年7月20日時点で、WHOはギニア、シエラレオネ、リベリアにおける保健当局と連携してエボラウイルス疾患の疑い例および確定例の累計1,093例および死亡例660例を報告した。
22	エボラ出血熱	WHO GAR 31 July 2014	2014年7月24～27日、西アフリカ(ギニア、リベリア、ナイジェリア、シエラレオネ)におけるエボラウイルス疾患(EVD)において新規に122例の感染が確認された。2014年7月27日時点で、これら4ヶ国におけるEVDに起因する累積症例数は死亡729例を含む1,323例となっている。
23	エボラ出血熱	WHO ROADMAP UPDATE 2014年10月22日	2014年10月19日までにエボラウイルス疾患(EVD)の感染国5ヶ国(ギニア、リベリア、シエラレオネ、スペイン、米国)および以前の感染国2ヶ国(ナイジェリア、セネガル)においてEVDの症例計9,936例(確定例、可能性例および疑い例)、死亡例計4,877例が報告された。
24	エボラ出血熱	WHO update 20 August 2014	2014年8月18日時点で、WHOはギニア、シエラレオネ、リベリア、ナイジェリアにおける保健当局と連携してエボラウイルス疾患の疑い例および確定例の累計2,473例および疑い例の死亡1,350例を報告した。
25	マールブルグ病	WHO GAR 2014年10月10日	2014年10月5日、ウガンダ Ministry of Healthは、ウガンダ Kampalaにおけるマールブルグウイルス疾患の確定例1例をWHOに報告した。本症例は医療従事者であり、2014年9月11日にKampalaのMengo Hospitalにおいて勤務中に発症し、9月28日に死亡した
26	ハンタウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)1629-1636	チリ南部におけるアンデスハンタウイルス(ANDV)のヒト-ヒト感染の報告。アンデスハンタウイルス感染患者への接触後に2人の家族と2人の医療従事者において、ANDV感染が確認された。
27	デング熱	ProMED-mail 20141013.2856793	マレーシアにおける2014年1月1日～9月13日のデング熱の症例数は72,603例であり、2013年の同期間の250%以上の増加となっている。2014年10月3日時点の症例数は、76,700例に増加し、10月1日以降の2日間に621例増加した。
28	デング熱	厚生労働省 2014年8月27日28日	日本におけるデング熱の報告。2014年8月、厚生労働省より3例のデング熱が報告された。3例とも海外渡航歴はなく、東京都の同じ学校に通っており、発症前に渋谷区の代々木公園を訪れ、蚊により感染したと考えられている。
29	デング熱	英PHE Emerging infections: monthly summaries (2014年8月付け)	日本におけるデング熱に関する報告。2014年8月以降、東京における複数の公共公園に関連したデング熱のアウトブレイクが報告された。9月17日時点で141症例であった。2013年には東京を訪れた後にドイツへ帰国した渡航者におけるデング熱の確定例1例が報告されており、デングウイルスは進行中の本アウトブレイク以前に日本に存在していた可能性がある。
30	ロタウイルス感染、コロナウイルス感染、クリプトスポリジウム感染、サルモネラ症、大腸菌感染	N Z Vet J. 2014 Sep 19 1-18[Epub ahead of print]	ニュージーランドにおける子牛のウシA群ロタウイルス、コロナウイルス、クリプトスポリジウム、サルモネラ、K99大腸菌への感染状況の報告。2011年後半にニュージーランドにおいて収集された子牛の糞便サンプル(n=1,283)について調査した結果、97の農場のうち、93の農場(96%)において、糞便サンプルから腸病原体が検出された。標準的な農場での感染率は、ウシA群ロタウイルス46%、コロナウイルス14%、クリプトスポリジウム18%であった。
31	ウイルス感染	AABB Annual meeting 2014; Philadelphia, PA, U.S.; Oct 25-28, 2014.	中国の供血者における重症熱性血小板減少症候群ウイルス(SFTSV)に関する報告。中国のSFTSV流行地域(信陽市)および非流行地域(綿陽市、洛陽市)の供血者において抗体検査を行ったところ、抗体陽性率は流行地域で0.59%、非流行地域でそれぞれ0.27%、0.28%であった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
32	ウイルス感染	Clin Infect Dis. 60(2015)195-202	米国における新規ポックスウイルスの報告。米国において、ウマとの接触歴を有するヒト2例で新規ポックスウイルス感染が認められた。2つの分離株は遺伝的に類似しており、地理的起源が共通している可能性がある。人畜共通感染症の可能性が考えられるが、接触動物および環境からの大規模なサンプリングでも同じウイルスを検出できなかった。感染源は現段階では特定されていないが、動物由来であると推定されている。
33	ウイルス感染	Emerg Infect Dis. 20(2014)1766-1767	ドイツにおけるオニオンニオンウイルス (ONNV) の報告。2013年10月14日、7日間の東アフリカ旅行から帰国した60歳のドイツ在住の女性がONNVに感染した。蛍光抗体 (IFA) 法により入院時の血清サンプルから、ONNV IgMとIgG抗体およびチクングニヤウイルス (CHIKV) IgMとIgG抗体が検出された。発症26日後には、ONNV IgG抗体価が1/4に減少し、ウイルス中和試験においてONNVに特異的な中和抗体の存在が確認された。CHIKVに対する交差性中和抗体も検出されたが、ONNV (1:1280) よりもかなり低かった (1:80)。
34	ウイルス感染	J Clin Microbiol. 53(2015)719-721	スペインにおいて、Spiroplasma turonicumによる初めてのヒト感染例が確認された。生物学的DMARDsを長期間使用していたため、免疫抑制が誘発され感染症に罹患しやすい状態にあった。また、この患者は低γグロブリン血症であり、感染に関与した可能性がある。著者らはSpiroplasma属種が生物学的製剤使用に伴う新規の日和見病原体になる可能性が示唆されたと報告している。
35	ウイルス感染	The New York Times DEC. 23, 2014	米国において新種のウイルスが分離されたとの報告。2014年夏、カンザスで農業従事者を死亡させた新種のウイルスを、パーボンウイルスと名付けたことをアメリカ疾病予防管理センターが発表した。このウイルスはオルトミクソウイルス科に属するソトウイルス属の一種であり、この疾患は進行が速く重度であり、肺不全、腎不全やショックを引き起こす。この疾患に対する治療法はなく、媒介生物も不明である。
36	ウイルス感染	http://www.kdheks.gov/news/archives/2014/12222014.htm	ID35と同じ
37	ウイルス感染	ProMED-mail 20141223.3051132	ID35と同じ
38	クロイツフェルト・ヤコブ病	J Virol. 88(2014)13732-13736	孤発性および遺伝性クロイツフェルト・ヤコブ病 (CJD) 患者の脳組織を脳内投与したヒト以外の霊長類から得た用量反応データを使用し、血液と脳組織を介した感染性、静脈内投与と脳内投与による感染力の差となるパラメータを調節したモデルを用い、輸血投与量と変異型CJD感染の関係について解析した結果、潜伏期間終了間際の感染者から採血された全血1単位を輸血されたヒトの平均感染率は76%であると予測された。
39	クロイツフェルト・ヤコブ病	Nat Commun. 2014 Dec 16;5:5821. doi: 10.1038/ncomms6821.	ヒトプリオンタンパク質を過剰発現するように遺伝的に操作したマウスモデルを用いて、スクレイピープリオンのヒトへの感染能を調べた結果、ヒツジスクレイピープリオンの一群が、このマウスに感染し、その効率がBSEに匹敵することが明らかとなった。このマウスに数種類のスクレイピープリオンを感染させると、ヒトの孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病の原因となるプリオンと表現型が同一と考えられるプリオンが増殖した。これらの結果により、スクレイピープリオンが人獣共通感染の可能性があり、動物のプリオンとヒトのプリオンが関連する可能性が示唆された。
40	クロイツフェルト・ヤコブ病	Vox Sang. 107(2014)220-225	TMER (Transfusion Medicine Epidemiology Review) の研究によると、2014/2/1時点でvCJDと診断された177例中15例が輸血を受けていたことが特定された。このうち10例で輸血歴が確認され、発症時に輸血された1例を除外した9例のうち、輸血による感染が確認された症例は3例であり、残り6例は輸血との関連が確認されなかった。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
41	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information 2014.12.04	ポルトガルにおけるBSEの報告。2014年11月7日ポルトガル、ブラガにおいてBSE監視計画の検査にて定型BSEの雄ウシ1頭が確認された。本疾患の発生源または感染源は未確定であり、疫学調査が継続中である。
42	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information 2015.1.29	ノルウェーにおけるクロイツフェルト・ヤコブ病の報告。2015年1月20日、ノルウェー獣医学研究所は、BSEサーベイランスプログラムの一環として行われた中枢神経系検体の検査から、ノルウェーで屠畜された雌牛1頭にBSE感染の疑いがあるとノルウェー食品安全局に報告した。当該ウシは15歳のノルウェー生まれで、2015年1月12日に殺処分される以前には神経症状等の臨床症状は呈していなかった。
43	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	OIE Weekly Disease Information 2014.12.25	2014年12月22日ルーマニアにおけるBSEの報告。ルーマニアの屠殺場において臨床兆候のないウシ1頭で定型BSEが確認された。本疾患の発生源または感染源は未確定であり、疫学調査が継続中である。
44	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	ProMED-mail 20141225.3055021	ID43と同じ
45	プリオン因子検査陽性	N Engl J Med. 371(2014)530-539	米国における変異型クロイツフェルト・ヤコブ病(vCJD)に関する報告。vCJD患者14例、孤発性CJD患者68例、遺伝性のプリオン病患者4例およびその他の変性または日変性神経疾患の患者各50例、健常者52例の尿を採取し、Protein Misfolding Cyclic Applicationを用いて、PrPScの検出を行った。その結果、vCJD患者14例中13例の尿検体からPrPScが検出された。他の患者および健常者の尿中にはPrPScが検出されなかった。また、尿検体から検出されたPrPScの感染性については確認されていない。
46	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis. 21(2015)345-348	タイにおけるブタレンサ球菌感染の報告。2006～2012年にタイのナコーンパノムにおいて、38例の入院患者がブタレンサ球菌感染症と特定された。死亡例はなかった。12例に永続的な難聴を生じ、35例は発症前7日以内にブタまたは豚肉に接触していた。
47	炭疽	ProMED-mail 20140528.2504058	インドにおける炭疽の報告。2014年5月、Boipariguda Block, Jangaljadi villagelにおいて炭疽により3例が死亡し、他18例が感染した。これらの症例は汚染された牛肉を摂取したことが報告されている。
48	炭疽	ProMED-mail 20140702.2593231	ハンガリーにおける炭疽の報告。Jasz-Nagykun-Szolnok County, Tiszafuredlにおける炭疽のアウトブレイク1件により、ヒト8例が医療機関で治療を受けている。本事例は農場でのウシ2例の違法な屠殺に関連しているとみられる。
49	炭疽	ProMED-mail 20140705.2590047	ハンガリーにおける炭疽の報告。2014年7月4日、ハンガリー東部、Hajdu-Bihar County, Debrecenにおいて炭疽中毒によりヒト計6例が入院した。炭疽菌感染はウシが原因である。
50	炭疽	ProMED-mail 20140708.2595721	ハンガリーにおける炭疽の報告。2014年7月7日、ハンガリー東部のHeves countyにおいて、牛肉が炭疽に感染していることが確認された。ヒト1例が症状を呈し、治療を受けている。
51	炭疽	ProMED-mail 20140710.2600959	ウズベキスタンにおける炭疽の報告。ウズベキスタン、Syrdarya region, Khavast distinctlにおいてヒト計31例が炭疽と診断された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
52	炭疽	ProMED-mail 20140729.2643884	ウズベキスタンにおける炭疽の報告。ウズベキスタンの農村地域においてヒト数十例が炭疽に感染し、ウシの大規模なワクチン接種が行われている。Farishsky district, Khusnobod villageにおいて感染した全てのヒトは感染したウシを購入もしくは販売していた。Samark province, Vagashti villageの住人はヒソジの食肉処理をした数日後に感染した。
53	炭疽	ProMED-mail 20140801.2652726	アルゼンチンにおける炭疽の報告。2014年7月4日、死亡したヒト1例の血液サンプルが送付され、炭疽が培養された。調査により、その頃、多数のウシによる急性の死亡の発生が判明した。
54	炭疽	ProMED-mail 20140809.2675341	ハイチにおける炭疽の報告。Petit-Goave, Corailなど複数の場所において、約2週間炭疽の症例が報告されている。炭疽によりウシ6例が死亡し、現在ヒト9例が感染している。
55	炭疽	ProMED-mail 20140809.2675387	トルコにおける炭疽の報告。Ankara, Haymana districtにおいて、炭疽に感染したウシの食肉処理を行った後にヒト10例が炭疽に感染した。
56	炭疽	ProMED-mail 20140813.2686502	ロシアにおける炭疽の報告。2014年8月9～10日、Molokanovsky Ilimenskyの村において男性1例における炭疽が確認された。感染の原因は自宅でのウシの食肉処理である。本症例はVolgogradの病院に入院した。
57	ウシ結核	N Z Vet J. 2014 Oct 2 19 1-44[Epub ahead of print]	ニュージーランドにおける2013年までの野生動物および家畜のウシ結核菌のコントロールプログラムの歴史についてのレビュー。このプログラムにより、1905年に11%であったウシにおけるウシ結核菌感染率が2012年および2013年には0.003%以下に減少した。
58	マイコバクテリア 感染	第81回日本細菌学会 北海道支部学術総会 (2014.08.29.30)	ネパールにおいて、アクシスジカ (<i>Axis axis</i>) およびニルガイ (<i>Boselaphis tragocamelus</i>) から <i>Mycobacterium orygis</i> が分離されたとの報告。
59	サルモネラ症	Int J Food Microbiol. 189(2014)11-17	イタリアにおけるサルモネラ症の報告。2011年6月にイタリア北東部での結婚披露宴出席者の間でサルモネラ症のアウトブレイクが報告された。このアウトブレイクの原因は披露宴で出された調理済みの豚肉料理と特定された。ヒト及び料理から単離された菌はサルモネラ (ファージ型DT7a) と同定された。
60	ブルセラ症	AABB Annual meeting 2014; Philadelphia, PA, U.S.; Oct 25-28, 2014	米国における血小板製剤による <i>Brucella abortus</i> 感染の報告。血小板減少症で入院中の男性が血小板製剤を輸血後に、当該製剤の <i>Brucella abortus</i> 汚染が確認された。担当医への迅速な報告により、患者は広域抗生物質が投与された。患者は6ヶ月間、 <i>Brucella</i> 凝集反応試験を行ったが全て陰性であり、その後も臨床感染のエビデンスは確認されなかった。
61	野兎病	ProMED-mail 20140912.2763100	米国コロラド州において死亡したハタネズミに野兎病が確認された。コロラド州では例年では4例の野兎病が報告されていたが、2014年には大雨により植物が生い茂りウサギの生息地が拡大し、例年の4倍の野兎病が報告されている。
62	野兎病	ProMED-mail 20140918.2783744	米国コロラド州における野兎病の報告。コロラド州において、レイビル在住の女性が野兎病に陽性反応を示した。この女性はイヌの散歩中にウサギの死骸に触れたと報告されている。
63	野兎病	ProMED-mail 20140923.2798680	米国コロラド州において、野兎病に感染したヒト1例が報告され、野ネズミおよびウサギの感染が報告された。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
64	野兔病	ProMED-mail 20150212.3161852	2015年2月10日、コンボ保健省はコンボにおける野兔病の流行を発表した。2015年1月1日～2月10日で、206例の野兔病が報告された。
65	野兔病	国立感染症研究所 感染症発生情報 2014年第36週	日本における野兔病の報告。2013年第36週から2014年第35週までに診断された症例として、野兔病1例(感染地域:兵庫県、感染経路:不明)が報告された。
66	クロストリジウム感染	第57回日本感染症学会中日本地方会学術集会 第84回日本感染症学会西日本地方会学術集会	Clostridium haemolyticumによる初めてのヒト感染症例に関する報告。悪性リンパ腫の治療経過中である69歳男性において、腸骨骨髄炎、仙腸関節炎および腸骨筋内の膿瘍からClostridium haemolyticumが分離された。
67	クロストリジウム感染	第84回日本感染症学会西日本地方会学術集会 2014.10.23-25	国内におけるClostridium haemolyticum感染の報告。69歳の男性が腹痛等を訴え、近医を受診した結果、びまん性大細胞型B細胞リンパ腫stageIVと診断された。その後左後腸骨棘皮下に膿瘍が認められ、穿刺吸引を行い、膿の培養によりC.haemolyticumが検出された。著者らは、文献検索の結果、ヒトにおける感染例はこれまでに報告されていないと述べている。
68	梅毒	ProMED-mail 20140926.2806438	カナダにおける梅毒の報告。カナダのプリンスエドワード島において、梅毒感染症例数の増加が観測されている。2014年9月までに梅毒症例数は2013年の2倍となっている。
69	Q熱	BULLETIN ZUR ARZNEIMITTELSICHERHEIT Information aus BfArM und PEI 2014 (4) 13-15	ドイツにおけるQ熱の報告。ドイツでは、加齢、消耗性疾患等の治療のために、ヒツジ胎児の組織や器官から製造された細胞懸濁液を筋肉内投与する新鮮細胞療法が行われている。2014年ドイツにおいて新鮮細胞投与と時間的に関連のあるQ熱症例が2例報告された。この2例は同じ施設で新鮮細胞療法を受けていた。
70	細菌感染	Prev Vet Med. 117(2014)436-446	ニュージーランドの家畜から分離されたヨーネ菌 (Mycobacterium avium subsp. paratuberculosis: MAP) についての報告。ヒツジ、肉牛からは主にMAP Type I が分離され、乳牛、鹿からはMAP Type II が分離された。同じ農場で放牧されるなど密接な関わりがある場合、MAPの異種間での感染が生じることが示された。
71	バベシア症	Transfusion. 54(2014) 2217-2225	蛍光抗体法 (IFA法) によるBabesia microti抗体価が64倍以上の供血者において、3年間の追跡調査を行ったところ、これらの供血者は低レベルの原虫血症が長期化し、寄生虫学的検査や分子生物学的検査で断続的に陽性となる供血者が確認された。
72	バベシア症	Transfusion. 54(2014) 2226-2236	米国におけるBabesia microti(B.microti)の報告。臨床研究中のB.microtiスクリーニング(arrayed fluorescence immunoassay(AFIA))およびPCRを用いて、2010年および2011年5～9月に米国の非流行地域(アリゾナ州、オクラホマ州)、中程度の流行地域(ミネソタ州、ウィスコンシン州)、高流行地域(コネチカット州、マサチューセッツ州)における供血者保管検体の検査を行ったところ、非流行地域4,022例、中流行地域4,167例、高流行地域5,080例のサンプルが検査され、B.microti陽性率は、0.025%、0.12%、0.75%であり、予想された地理的なパターンに従った。
73	トキソプラズマ症	J Food Prot. 77(2014)643-646	イタリアにおける急性トキソプラズマ症の報告。患者は16歳の少女で発熱と衰弱、顎下部のリンパ節の腫脹を呈した。血清学的分析ではToxoplasma gondii(T.gondii)陽性、結合活性テスト、免疫プロットを実施し、急性トキソプラズマ症と確定診断された。患者は約1ヶ月前に父親が作った生のソーセージを摂取しており、同時期に作られた冷凍のソーセージを分析し、nested-PCRでT.gondiiのDNAを検出した。

ID	感染症 (PT)	出典	概要
74	住血吸虫症	Lancet. 389(2014)1094-1095	欧州において、住血吸虫症の土着症例および輸入症例が増加している。地中海地域は住血吸虫の中間宿主である淡水巻貝の一種 <i>Bullinus</i> の生息地であり、気候温暖化により、地域内感染が発生しやすい環境となっている。また多くの旅行者が流行地域で水への曝露により汚染され帰国する。欧州各国の国軍ではアフリカでの任務のため多くの住血吸虫症が見られる。
75	線虫症	Emerging Infections Monthly Summaries. 2014	米国における <i>Haemaphysalis gingivalis</i> (<i>H.gingivalis</i>) 感染の報告。英国ウェールズにおいて <i>H.gingivalis</i> に感染した同ドナーからの腎移植を受けた直後に死亡した患者2例が報告された。
76	回虫症	Emerg Infect Dis. 21(2015)332-334	米国における回虫症の報告。2010年～2013年に米国メイン州で発生したヒトの回虫症の14例を同定し、全ての症例の共通因子として、ブタへの直接または間接的な接触があったことが明らかとなった。
77	ライム病	ProMED-mail 20140714.2608176	カナダにおけるライム病の報告。ケベック南部においてライム病の症例数が引き続き増加している。Monteregieのみで、症例数は最近数年間と比較して4倍となっている。2013年にはケベックにおいてライム病症例が142例報告された。
78	微胞子虫類感染	PLoS ONE. 9(2014)1-5	急性水様下痢を発症した若いニワトリ(50日齢未満)の十二指腸粘膜試料14例、3段階の年齢層(離乳前の30日齢未満、離乳後の30-60日齢、成長期の60日齢以上)の重篤な下痢のブタの十二指腸粘膜試料64例を採取し、検出された微胞子虫 <i>Enterocytozoon bieneusi</i> (<i>E.bieneusi</i>) の遺伝子型を調べた結果、人畜共通感染性の遺伝子型が認められた。下痢のニワトリに <i>E.bieneusi</i> の人畜共通感染性遺伝子型が存在することが初めて示された。